

2022年度春学期修士論文・課題研究テーマ一覧

2022年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏名：益子 南帆

題目：日本銀行の長短金利操作付き量的・質的金融緩和に関する一考察—VARモデルによる検証—

梗概：当研究では、長短金利操作付き量的・質的金融緩和が実体経済に与えた影響について、VARモデルを推定し、インパルス応答分析、分散分解、そしてグレンジャー因果性検定による検証を行った。長短金利操作付き量的・質的金融緩和の金融政策ショックを、主要な金融調節手段であるマネタリーベースの増額ショック、そしてETFおよびJ-REIT買い入れショックとして代替させ、分離して検証した。検証の結果、日銀は大規模にマネタリーベース供給を継続してきたものの、生産といった実体経済へ及ぼす影響はかなり限定的であった。また、日銀によるETFおよびJ-REIT買い入れは、マネタリーベースの大規模な供給と比較すると一定の影響がみられた。

また「こども宅食」を国や自治体の政策として実施するための条件や課題も明らかにし、こども家庭庁の設置に向けて進む中「こども宅食」の政策化を提言するものである。

氏名：竹内 弘一

題目：こどものいる貧困世帯見守り支援の新たな手法「こども宅食」の政策化

梗概：本論文は、貧困世帯支援の一つとして一部地域で取り組みがスタートした「こども宅食」について論述するものである。現在、民間のNPOや社会福祉法人が主体で行っているものの、活動資金は主に寄付に頼っている実情があり、その足元は脆弱である。そこで、本論文では、子どもの貧困の現状を先行研究を通じて検討し、既に全国で行われている「子ども食堂」についても検証した上で「こども宅食」の取り組みについて詳細を説明し、利用者へのアンケートの分析などを通じて有効性を証明する。